

綾歌町富熊字藏ノ内地区
【藏ノ内遺跡】

第XIV章 綾歌町富熊字藏ノ内地区試掘調査

調査対象地 綾歌町富熊字藏ノ内 2448-3
 調査期間 平成21年1月27日～1月29日
 調査面積 約107.5m² (調査対象地面積676m²)

1. 立地と環境

計画区域は、丸龜平野南部の東端付近に位置する。北には横山から西に派生する丘陵、南西には岡田台地がそれぞれ迫っており、平野としては若干絞り込まれている。

周辺には、富士見坂団地のある丘陵部に『地神山古墳群(古墳:古墳)』が所在し、平野部では北側350m地点に『庄遺跡(弥生～中世:集落跡)』、南隣接地点に『塔寺遺跡(不明:包含地)』が所在している。また、北の正八幡神社のある丘陵上には『宮前八幡神社古墳(古墳:古墳)』が、更に西に延びる尾根斜面部には『次見遺跡(弥生:集落跡)』が所在する。東方に聳える横山丘陵には、『横山経塚古墳群(古墳:古墳)』をはじめとする積石塚前方後円墳が多く築かれている。

これらのことから、この付近は弥生時代から古墳時代にかけて特に活発な地域であったことが読み取れる。



第74図 調査地位置図

2. 調査に至る経緯と調査の経過

歯科医院の建設に伴い、平成21年1月13日に埋蔵文化財の所在及びその取扱いについての照会文書が提出された。計画区域は、南の塔寺遺跡のある緩やかに延びる微高地にあたり、立地としては非常に安定している。周辺の遺跡分布状況からも遺跡が所在する可能性は極めて高いと考えられる。このことを基に検討した結果、試掘調査を実施することとした。

調査の結果、埋蔵文化財が発見されたので、2月5日付けで文化財保護法に基づく保護措置が必要である旨の回答を事業者に行った。

3. 調査の概要

調査は、重機掘削によるトレンチ調査とした。以下、トレンチ毎に概要を報告する。

【1トレンチ】

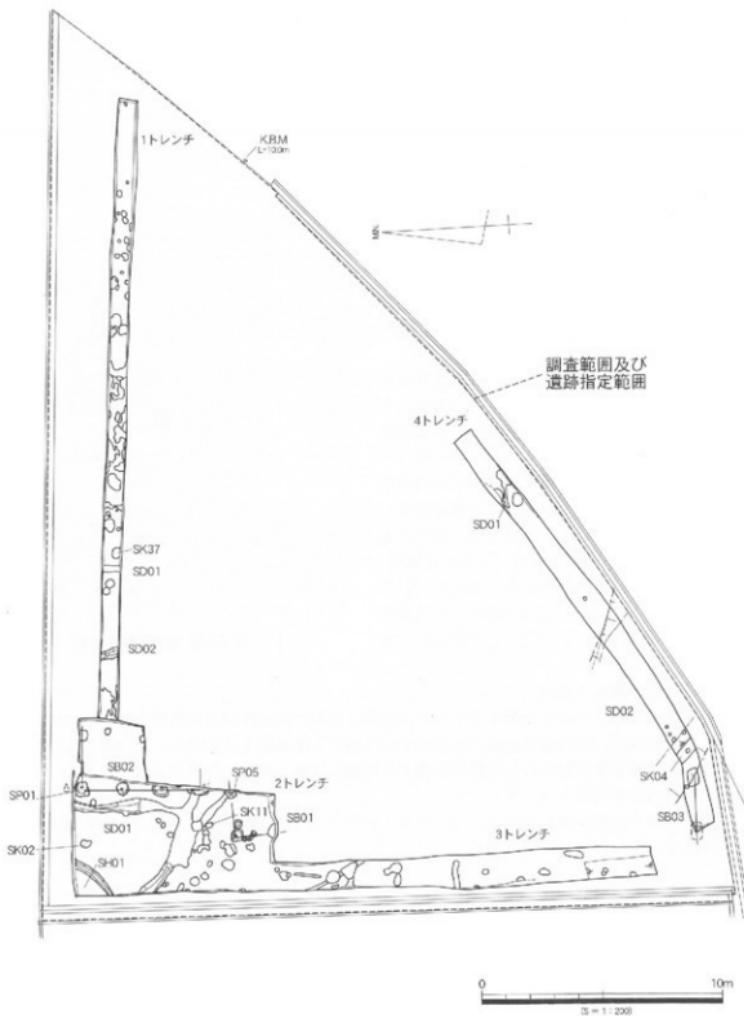
耕作土直下で土器片等を多く含む包含層が認められる。包含層の堆積厚は薄くその直下でベース層と考えられる灰黄色の粘質土層が現れる。

ほぼベース面一面に土坑状の落ちが検出できたが、柱穴であるかどうかは不明である。埋土から検討すると、少なくとも3時期には分類できるようで、包含遺物から弥生時代、古代、中世とすることが適当であると思われる。

土坑からは、1の土師質土器の土鍋が出土している。溝からは、2の弥生土器壺の口縁部、3の弥生土器底部、4の弥生土器の甕がほぼ完形で出土した。

【2トレンチ】

1トレンチに対して垂直に南北軸に設定したが、遺構面検出段階で遺構の状況を探るために拡張した。ト

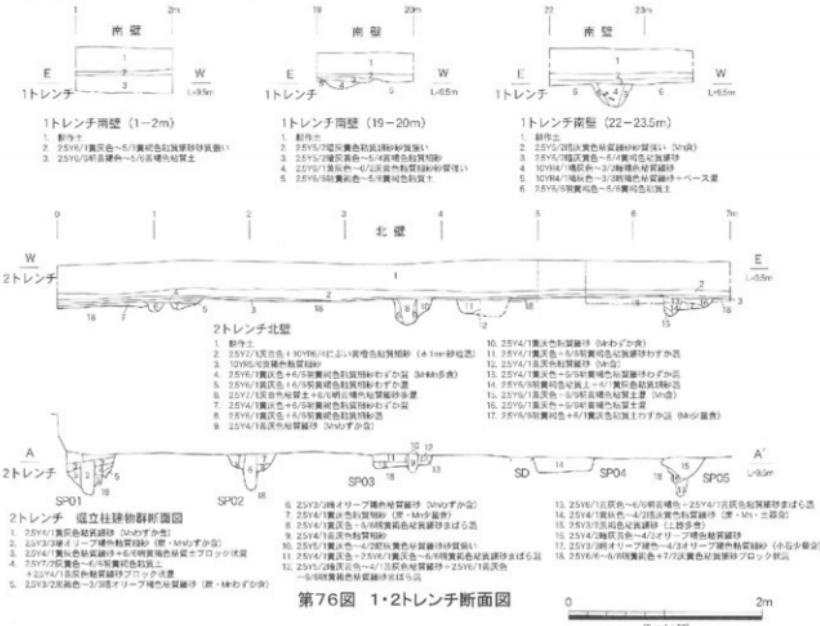


第75図 トレンチ配置図

レンチ東端付近で柱穴の列を確認した。掘立柱建物2棟の一部であると考えられる。トレンチ北西端で竪穴住居の一部も検出した。他にも、溝が巡っていることも確認した。

出土遺物は比較的多く、5～9は耕作土直下から出土している。5は弥生土器の底部、6は須恵器の坏蓋、

7は陶器の碗、8は須恵器の环身で高台が付く。内面底部には砂目が付着している。9は須恵器の鉢の口縁部である。10は須恵器の环蓋で、11は弥生土器の裏の口縁部で、それぞれ柱穴から出土している。12は須恵器の口縁部、13は弥生土器の甕の口縁部がそれぞれ土坑から出土している。14・15は弥生土器甕、16は弥生土器の鉢、17は弥生土器の蓋、18・19は弥生土器の小型の鉢、20・21は弥生土器の壺口縁部、22～25は弥生土器の底部でこれらは溝から出土している。



第76図 1・2トレンチ断面図

【3トレンチ】

全城に土坑、溝が連続する。調査期間に限りがあったため遺構の詳しい情報は得られていない。南端付近では、断面観察から遺構面が2面になる部分も認められる。

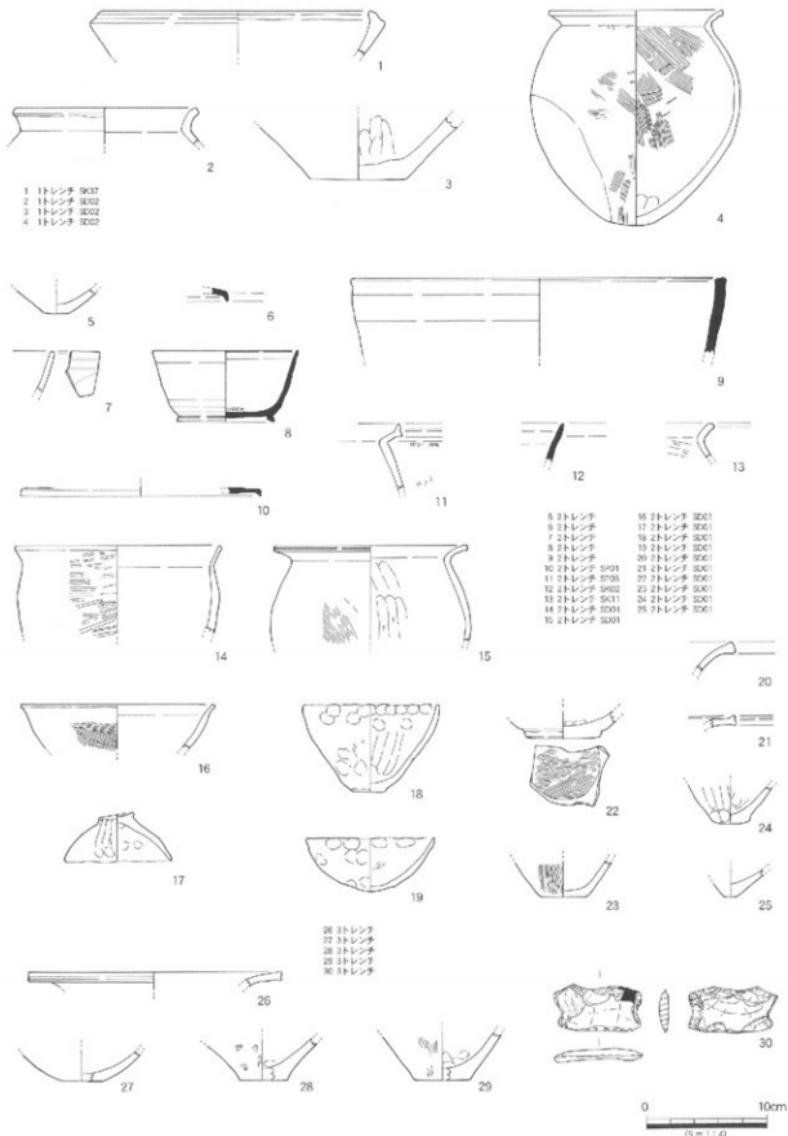
ここでは、26の弥生土器の壺の口縁部と27～29の弥生土器底部、30のサヌカイト製の石包丁が3・4層の包含層から出土している。

【4 トレンチ】

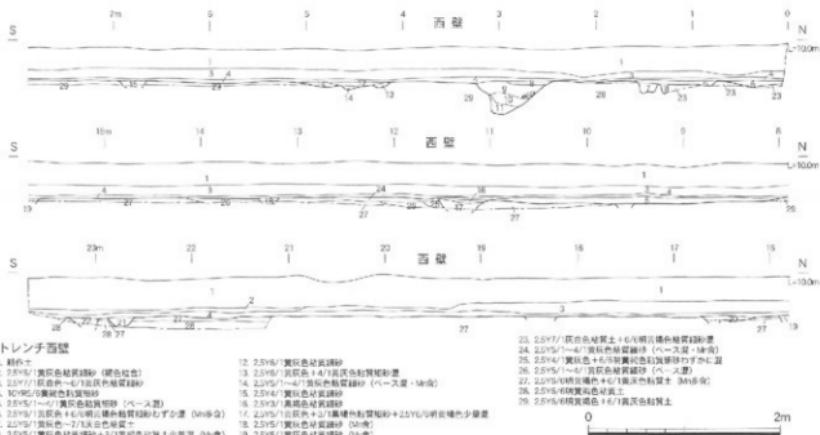
西半部では、方形の柱穴を持つ掘立柱建物の一部を検出した。また大型の溝状の落ちが認められた。

4トレンチにおいても出土遺物は比較的多く、31は須恵器の壺身で高台が付くもので耕作土直下から出土している。32～34はマンガンを多く含む包含層から出土しており、32は弥生土器の底部、33は弥生土器の壺の口縁部、34は弥生土器で長頸壺の口縁部である。35～46は大型の溝から出土している。35は弥生土器で甕の口縁部、36～40は弥生土器の壺の口縁部、39の口縁部外側には綾杉と思われる櫛構文が見られる。41～43は弥生土器の鉢の口縁部、44は弥生土器の底部、45は須恵器の壺蓋でつまみがや和平坦な宝珠形が付く。46は土師器皿の底部で、外面には鉄分が多く付着しており、西端の焼土から出土した。47は弥生土器の底部、48は弥生土器の高壺の脚部で、穿孔が2つ外面から開けられている。

それぞれ裏端の溝から出土した。



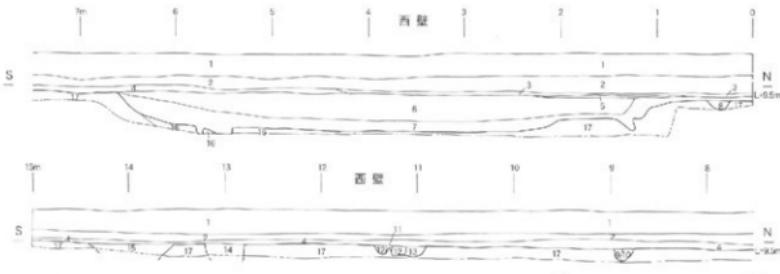
第77図 1~3トレンチ出土遺物実測図



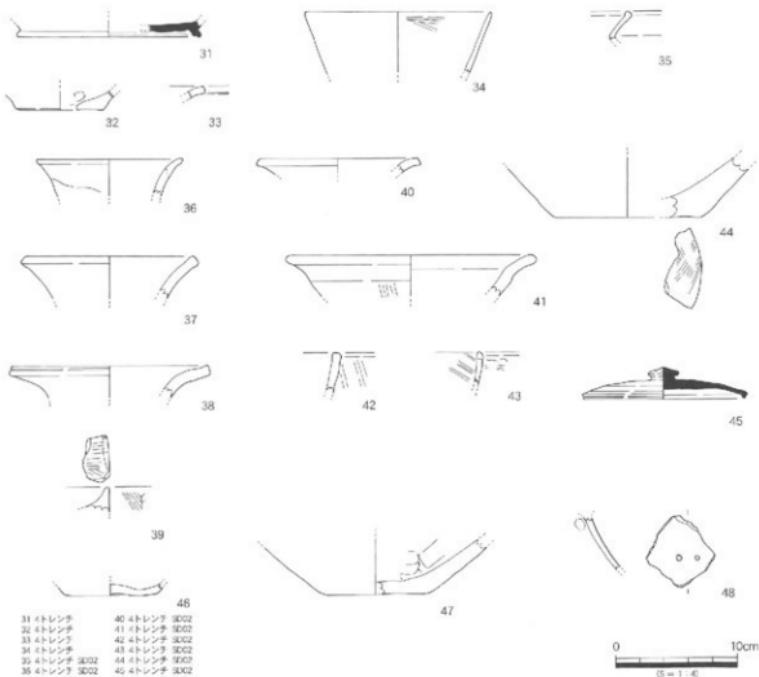
第78図 3トレンチ断面図

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1 トレンチ	0.8m × 26.0m	弥生・古代～中世	土坑、溝	弥生土器片、土師器片、須恵器片
2 トレンチ	7.4～3.9m × 8.5m	弥生・古代～中世	掘立柱住居、竪穴住居、土坑、溝	弥生土器片、土師器片、須恵器片
3 トレンチ	1.3m × 16.2m	弥生・古代～中世	土坑、溝	石包丁、弥生土器片、土師器片、須恵器片
4 トレンチ	0.9m × 13.4m	弥生・古代～中世	掘立柱住居、溝、土坑	弥生土器片、土師器片、須恵器片

第13表 織歌町富熊字蔵ノ内地地区試掘調査 トレンチ概要



第79図 4トレンチ断面図



第80図 4トレンチ出土遺物実測図

4.まとめ

今回の調査では、区域内の全城で密度の濃い遺構の分布を確認することができた。掘立柱建物3棟、堅穴住居1棟、溝7条、土坑多数を確認した。一部の遺構を掘り下げてみると、遺物も包含していることが分かった。

遺構面上層の包含層は多くの遺物を包含しており弥生時代～中世にかけて遺跡密度の濃い複合集落であることを示している。遺構は、計画区域内に留まらず、周辺にも広く展開していることが予想される。

これらのことから、計画区域全域について保護措置が必要であると考えられる。調査後、トレンチは埋め戻し原状に復した。

今回の調査区域は、『蔵ノ内遺跡』として、先に北側で調査して登録された『蔵ノ内遺跡』に追加登録されることとなった。



調査前風景:南東から



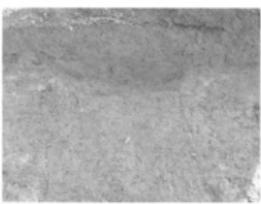
調査風景



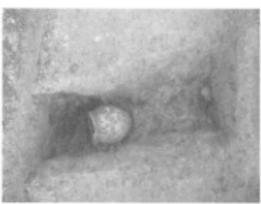
1トレンチ全景:西から



1トレンチ遺構検出状況



1トレンチSDO1断ち割り



1トレンチSDO2遺物出土状況



2トレンチ全景:南から



2トレンチ柱穴列確認状況



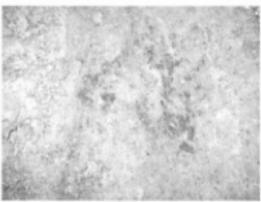
2トレンチ柱穴半截



2トレンチ竪穴住居確認状況



3トレンチ全景:北から



3トレンチ焼土層検出状況



4トレンチ全景:東から

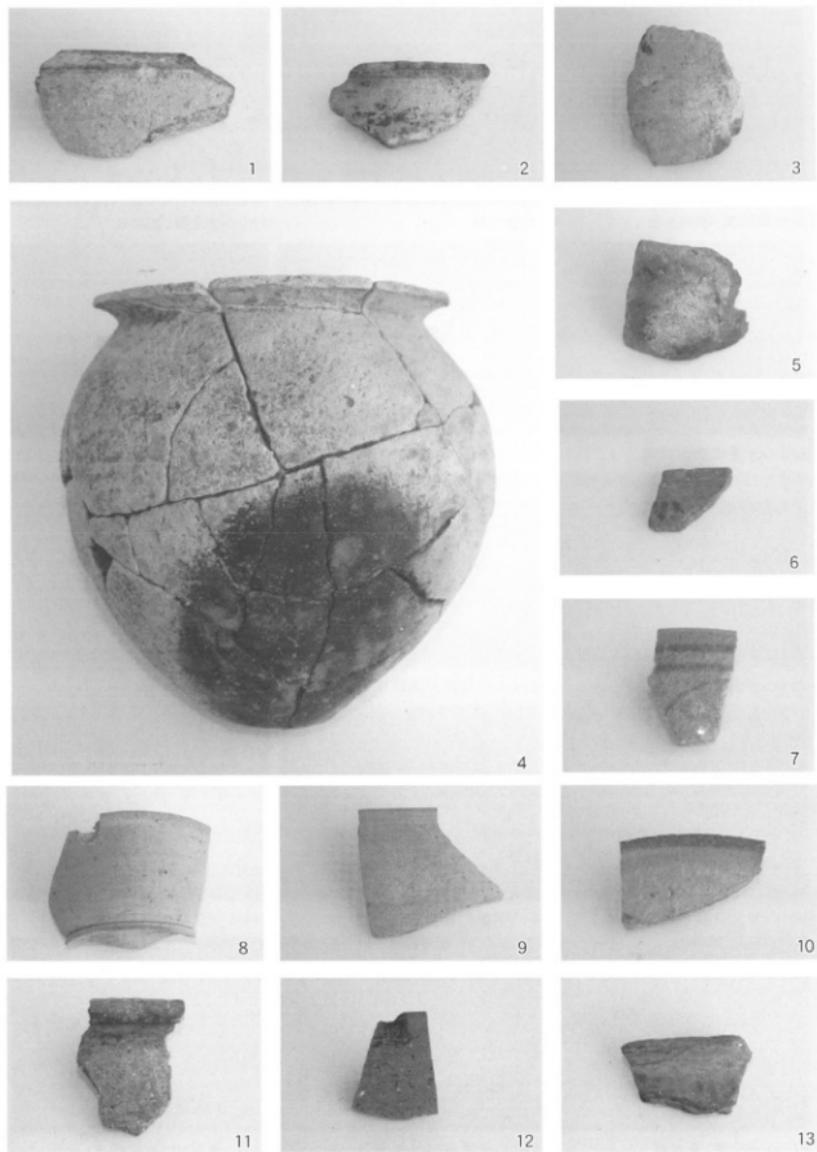


4トレンチ遺構検出状況

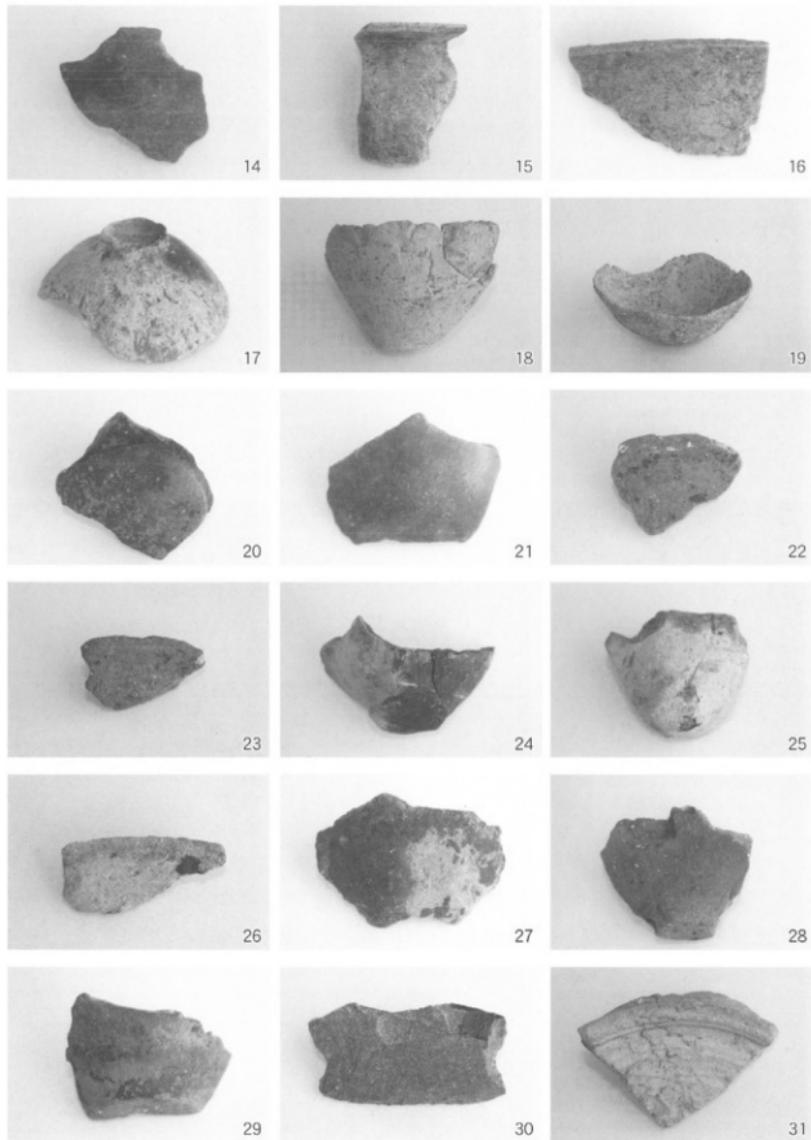


4トレンチSDO1確認状況

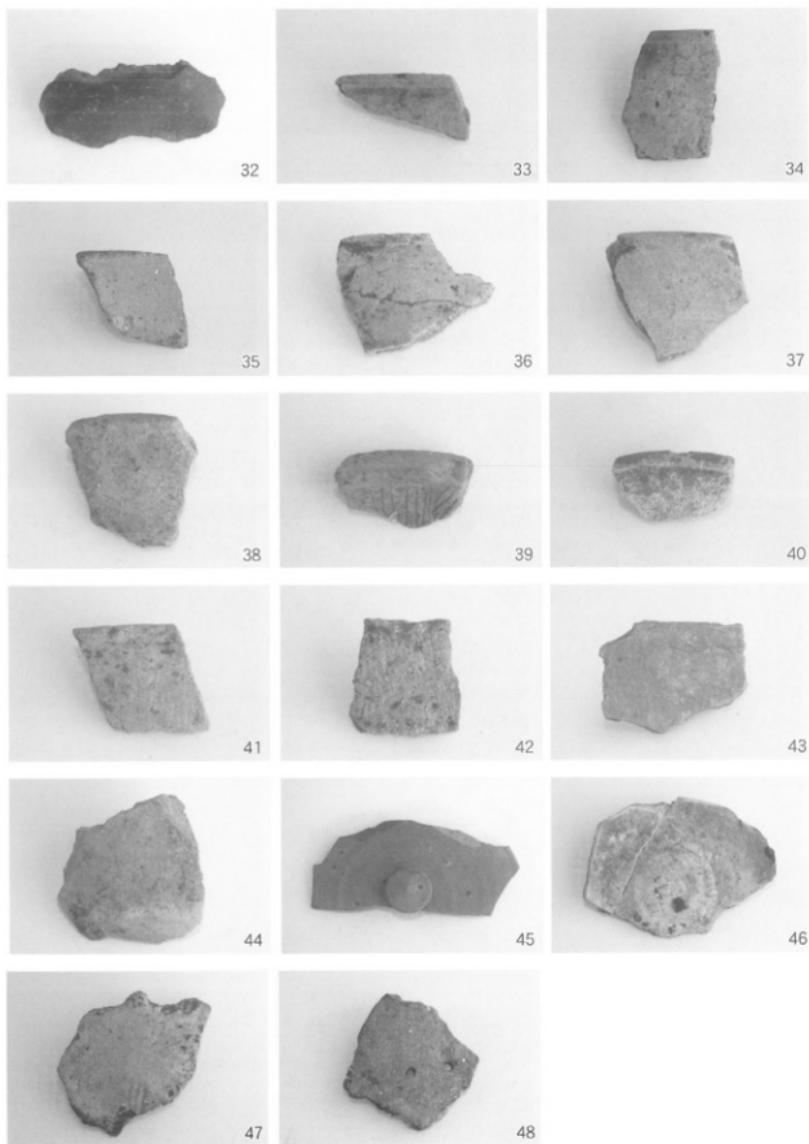
図版30 綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査(1)



図版31 綾歌町富熊字藏ノ内地区試掘調査(2)



図版32 綾歌町富熊字藏ノ内地区試掘調査(3)



図版33 綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査(4)

第XV章　まとめ

丸亀市では、旧丸亀市においては平成4年度から、綾歌町においては平成8年度から国庫及び県費補助を受けて丸亀市内遺跡発掘調査事業及び綾歌町内発掘調査事業を継続して実施してきた。

平成17年3月22日に旧丸亀市、飯山町、綾歌町が合併し4年目に入った今も、開発事業は更に増加傾向にあり、財政の厳しい丸亀市にとっては国庫補助を受けることが当該事業を進めるために有効であると判断することから引き続き、実施しているものである。

今年度の調査については、土器町西二丁目地区で携帯電話無線基地局建設に伴う試掘調査1件、飯山町東坂元字楠見地区で公共施設建設に伴う試掘調査1件、津森町字高丸地区、綾歌町栗熊東字下河西地区、飯野町東二字中代地区で店舗併用住宅及び店舗建設に伴う試掘調査3件、綾歌町岡田西字新田地区、綾歌町栗熊西字大妻田地区、飯山町東小川字前谷地区で個人住宅建設に伴う試掘調査が3件、綾歌町富熊字藏ノ内地区で分譲住宅建設に伴う試掘調査1件、金倉町字道下地区、田村町字橋の坪地区、綾歌町字富熊字沖地区で宅地分譲建設に伴う試掘調査3件、綾歌町富熊字藏ノ内地区歯科医院建設に伴う試掘調査1件の併せて13件を対象として実施した。

土器町西二丁目地区では、『和名類聚抄』にも登場する十二社宮の元社叢地が所在しており、古くから開けた土地であることから試掘調査を実施した。

調査の結果、当該地は大きく搅乱を受けていることが判明し、その他のトレンチ状況から見ても、この範囲には遺跡の所在がないものと考えられ、埋蔵文化財保護措置は不要とした。

飯山町東坂元字楠見地区では、この近隣でも埋蔵文化財調査事業事例が無く、包蔵地の状況が不明であったことから、試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構状の落ちを数箇所検出した。また、様々な時代の遺物が混在する包含層が計画地内全体で確認できるものの、これらに対応する明確な遺構が検出されなかったことから保護措置は不要とした。

津森町字高丸地区では、『中の池遺跡』『道下遺跡』『新田橋本遺跡』『今津中原遺跡』『津森位遺跡』など、周辺に弥生時代～中世にかけての集落遺跡が分布していることから、比較的安定した集落として土地利用がなされた地域であり、これらの遺跡に間連する埋蔵文化財の分布が予想されることから、試掘調査を実施した。

調査の結果、溝状の落ちが集合する部分を検出した。しかし、埋土や遺物の状況などから旧河道か谷地形への流入水によるものと考えられる。遺物の密度も非常に薄いことから、この落ち地形の周辺に遺跡の展開は考え難いものと判断でき、保護措置は不要とした。

綾歌町岡田西字新田地区では、『大窪池遺跡』『東原遺跡』『上川井遺跡』『岡田万塚』など、様々な時代の遺跡が集中している地域であり、当該地もこれに間にわる遺構が展開する可能性があることから、試掘調査を実施した。

調査の結果、計画地内で土器片を包含する土坑状の落ちは数箇所で見られるが、連續性が見られず、現状として以前の状況も不明で、後世の改変を受けていることが明らかであった。遺構の分布は少なからず見られるものの非常に希薄であることから、保護措置は不要と判断した。

綾歌町栗熊西字大妻田地区では、北側に隣接する『佐古川遺跡』、東側には『石塚山古墳群』が所在していることから、弥生時代～古墳時代にかけての遺跡の展開が予想されるため、試掘調査を実施した。

調査の結果、計画地内では複数期の土器片を包含する層を確認し、耕作土の下層付近から土坑を2基検出でき、そのうちの1基からは柱根と考えられる木材が出土した。しかし、包含層は旧河道の堆積土及び整地土と推測でき、遺構の分布も検出できなかったことから、保護措置は不要であると判断した。

綾歌町栗熊東字下河西地区では、『行末西遺跡』『行末遺跡』が隣接して所在することから、弥生時代～古墳時代にかけて栄えていた地域であり、これらに間に連する遺跡の分布が予想されることから、試掘調査を実施した。

調査の結果、対象地内に土器片の包含が見られる土層は確認できたが、遺構はまったく存在しないことが判明した。出土した遺物もローリングを受けており、上手から流れ込んできたものと考えられる。このよう

なことから計画地周辺においては遺跡の展開する可能性が考えられるが、当該地において保護措置は不要と判断した。

飯山町東小川字前谷地区では、古墳時代中期の古墳群『岡田万塚』が分布しており、資料によると計画地内にも所在していたことが記されていることから、試掘調査を実施した。

調査の結果、資料に記されていた場所付近に古墳の周溝である可能性の高い溝を確認することができた。残存状況が悪かったが、古墳の所在した位置を特定できる貴重な資料を得ることができ、記録保存は十分であると考えられ、今後の保護措置は不要と判断した。

金倉町字道下地区では、北部に『道下遺跡』、南部に『中の池遺跡』が隣接しており、周辺には『新田橋本遺跡』『今津中原遺跡』が所在していることから、対象地内にも遺跡の分布が十分考えられ、試掘調査を実施した。

調査の結果、僅かに遺構を検出することはできたが、確実な遺構として捉えられるものは溝1条のみであった。耕作土直下に遺構面を確認することができ、全体的に大きく削平されていることから本来の遺構面は残存しておらず、出土遺物も極少量であることから、保護措置は不要と判断した。

田村町字橋の坪地区では、これまでに調査を実施した経緯が無く、埋蔵文化財の包蔵状況は不明となっている。しかし、計画地の半径1km以内では、縄文時代～弥生時代の集落遺跡が広い範囲で確認されている。

また、南方では『田村遺跡』『田村廢寺』などの分布が見られ、この地域に埋蔵文化財の所在を否定するのは難しいことから、試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構の分布が確認できた。確認された遺構はほとんどが溝で遺物もほとんど出土しないことから、詳細は不明であり、その他の遺構も見つかっていないことから、保護措置は不要と判断した。

飯野町東二字中代地区では、飯野山の西麓部に位置し、飯野山の麓では『飯野山西麓散在地』が広がり、数基の古墳や箱しき石棺も含まれていることから、計画地付近には古墳時代の集落遺跡が展開していると考えられ、試掘調査を実施した。

調査の結果、計画区域内東半分において遺構を検出することができた。出土遺物も弥生土器を包含する面から土師器を伴う土坑の検出をするなど、後世の影響を受けている可能性が考えられ、その他の遺構に対しても詳細を掴める資料を得ることができず、遺構密度も非常に薄いことから、保護措置は不要と判断した。

綾歌町富熊字藏ノ内地区では、計画地を囲む丘陵部に『地神山古墳群』『宮前神社古墳』『横山経塚古墳群』など多くの古墳が築かれ、平野部では『庄遺跡』『塔寺遺跡』が隣接しており、この地域にも弥生時代～古墳時代にかけての遺跡の展開する可能性が考えられ、試掘調査を実施した。

調査の結果、遺物を包含する層はほぼ全域で確認できたが、遺構を伴う区域は一部に限定され、13～14世紀に比定できる杯を包含する柱穴である可能性が考えられるなど、明確な土坑が数基検出できた。他にも、現在の地形からも想像できる谷地形が延びていることが確認でき、旧河道として機能していたものと考えられることから、遺構の分布がまとまって見られる範囲について保護措置を必要とし、その他の範囲については不要であると判断した。この結果、計画地内の一部分が『藏ノ内遺跡』として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録された。

綾歌町富熊字沖地区では、『行末西遺跡』『行末遺跡』が隣接し、これらは遺構の密度も濃く、拠点集落として栄えていたものと考えられ、計画地内もこれらの遺跡に関連する遺構の展開が考えられ、試掘調査を実施した。

調査の結果、計画地内全域で遺構を確認することができ、縄文時代晚期～中世にかけての複合遺跡であることが確認された。特に弥生時代後期に関しては非常に密度が濃く、弥生時代前期に上手の『行末遺跡』を中心とした集落が展開していたものが、後期になり『行末西遺跡』や今回の対象地付近の地域に集落拠点が移動してきたものと考えられ、遺構分布状況からも計画区域全域について保護措置を必要であると判断した。

この結果、計画地全域は周知の埋蔵文化財包蔵地の『行末西遺跡』として追加登録された。

綾歌町富熊字藏ノ内地区では、計画地を囲む丘陵部に『地神山古墳群』『宮前神社古墳』『横山経塚古墳群』など多くの古墳が築かれ、平野部では北方に『庄遺跡』、南方『塔寺遺跡』が隣接しており、この地域にも弥生時代～古墳時代にかけての遺跡の展開する可能性が考えられ、試掘調査を実施した。

調査の結果、調査区域内の全域で密度の濃い遺構の分布を確認することができた。今回の調査では掘建柱

建物3棟、竪穴住居1棟、溝7条、土坑多数を確認した。遺物も多く出土しており、弥生時代から中世にかけての密度の濃い複合集落であることがわかり、計画区域全域について保護措置が必要であると判断した。この結果、計画地域全体は『蔵ノ内遺跡』として追加登録された。

今年度については、当該事業によって上記13件の調査を実施した。それにより新たに1遺跡を発見し、2遺跡を追加することで既存する包蔵地内の状況確認資料を増やすこともできた。

また、今年度の事業においては、『津森町字高丸地区』及び『綾歌町栗熊西字大妻田地区』における試掘調査で木片及び木製品の出土があった。遺構の時期を検討するために分析することが適当であると考えられたことから、株式会社吉田生物研究所に委託して加速器質量分析法による放射性炭素年代測定及び顕微鏡観察による樹種鑑定を行った。『綾歌町栗熊西字大妻田地区』で出土した木材は、加工痕跡の認められる柱材であったため、高級アルコール法による保存処理も検討していたが、上記分析の結果、比較的新しいものであるとの結果となったため、保存処理には進めなかった。

当該事業においては、次年度以降についても継続して実施し、丸亀市内遺跡の適切な保護に努めていきたい。

調査地区名	調査期間	地蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて		発見届提出日	埋蔵文化財遺失事に關する事務 保管証提出日
		照会文書提出日	回答文書提出日		
① 土器町西二丁目	H20年6月19日	H20年6月3日	H20年8月20日	H20年7月25日	遺物なし
② 飯山町東坂元字楠見	H20年6月25日～7月2日	市事業により提出なし	H20年7月29日	H20年7月11日	H20年7月18日
③ 津森町字高丸	H20年7月15日～16日	H20年6月17日	H20年10月20日	H20年9月18日	H20年9月17日
④ 繰歌町田西字新田	H20年8月6日～7日	H20年7月18日	H20年11月21日	H20年10月23日	H20年10月23日
⑤ 繰歌町栗熊西字大妻田	H20年9月16日	H20年7月23日	H20年11月21日	H20年10月30日	H20年9月17日
⑥ 繰歌町栗熊東字下河西	H20年9月24日～25日	H20年8月13日	H20年10月20日	H20年10月3日	H20年9月26日
⑦ 飯山町東小川字前谷	H20年10月9日～10日	H20年9月17日	H20年11月21日	H20年10月27日	H20年10月10日
⑧ 金倉町字蓮下	H20年10月28日	H20年9月29日	H21年2月5日	H21年1月21日	H20年11月28日
⑨ 田村町字橋の坪	H20年11月4日～6日	H20年9月8日	H21年1月23日	H21年1月22日	H20年11月11日
⑩ 舶野町東二字中代	H20年11月25日～27日	H20年11月14日	H21年1月23日	H21年1月22日	H20年11月28日
⑪ 繰歌町高熊字籠ノ内	H20年12月16日～18日	H20年12月1日	H21年1月19日	H21年1月9日	H20年12月19日
⑫ 繰歌町富熊字沖	平成21年1月19日～21日	H21年1月7日	H21年2月5日	H21年1月22日	H21年1月23日
⑬ 繰歌町富熊字籠ノ内	平成21年1月27日～29日	H21年1月13日	H21年2月5日	H21年2月4日	H21年2月4日

第14表 調査に關する処理事務総括表

報告書抄録

ふりがな	まるがめしないいせき はつくつちょうさ ほうこくしょ							
書名	丸亀市内遭跡発掘調査報告書							
副書名	平成20年度因果補助事業報告書							
卷次	2009.3	シリーズ名	丸亀市内遭跡発掘調査報告書	シリーズ番号	第4集			
編著者名	丸亀市教育委員会 教育部 文化課	近藤 武司 谷口 桃	北山 多佳子					
編集機関	丸亀市教育委員会							
所在地	〒763-0034 香川県丸亀市大手町1丁目1番2号 Tel0877-24-8822							
発行年月日	2009年 3月31日							
頁数	例言・目次等	本文	插図	表	図版	総頁		
	23頁	118頁	80点	14点	341点	141頁		
所取道路・地区名	所在地	コード 市町村 地番番号	北緯 度 分 秒	東経 度 分 秒	調査期間 年 月 日	調査面積 (m ²)	調査原因	
土器町西二丁目地区	土器町西二丁目	202	34度 16分 19~20秒	133度 48分 48~42秒	6.19	16.8	考古遺跡施設推定	
飯山町東坂元字精見	飯山町東坂元字精見	385	34度 15分 53~57秒	133度 51分 53~57秒	6.25 ~ 7.12	320.3	公共施設建設	
津森町字高丸地区	津森町字高丸	202	34度 16分 34~35秒	133度 47分 22~23秒	7.15		店舗併用住宅建設	
綾歌町岡田西字新田地区	綾歌町岡田西字新田	384	34度 14分 18秒	133度 51分 2~3秒	8.6 ~ 8.7	63.0	個人住宅建設	
綾歌町栗熊西字大妻田地区	綾歌町栗熊西字大妻田	384	34度 15分 50~51秒	133度 52分 45~46秒	9.16	24.0	個人住宅建設	
綾歌町栗熊東字下河西地区	綾歌町栗熊東字下河西	384	34度 14分 31~32秒	133度 52分 42~44秒	9.24 ~ 9.25	115.0	商業施設建設	
飯山町東小川字前谷地区	飯山町東小川字前谷	385	34度 14分 8秒	133度 60分 48~49秒	10.9 ~ 10.10	25.0	個人住宅建設	
金倉町字道下地区	金倉町字道下	202	34度 16分 10~12秒	133度 46分 54~55秒	10.28	74.0	宅地分譲建設	
田村町字瀬の坪地区	田村町字瀬の坪	202	34度 16分 6~8秒	133度 47分 39~40秒	11.4 ~ 11.6	242.8	宅地分譲建設	
飯野町東一字中代地区	飯野町東一字中代	202	34度 16分 2~4秒	133度 50分 12~15秒	11.25 ~ 11.27	76.0	商業施設建設	
綾歌町富熊字城ノ内地【城ノ内跡】	綾歌町富熊字城ノ内	384 0203	34度 14分 50~51秒	133度 53分 7~10秒	12.16 ~ 12.18	129.0	分譲住宅建設	
綾歌町富熊字神沖地区【行木沖跡】	綾歌町富熊字神	384 0173	34度 14分 31~33秒	133度 52分 29~31秒	1.19 ~ 1.21	105.5	宅地分譲建設	
綾歌町富熊字城ノ内地区【城ノ内跡】	綾歌町富熊字城ノ内	384 0203	34度 14分 43~44秒	133度 53分 11~12秒	1.27 ~ 1.29	107.5	専科医院建設	

所収遺跡・地区名	種別	古な時代	主な遺構	主な遺物	等記中項					
土器町西二丁目地区			土坑							
藤山町東坂元字堀見地区	集落跡	弥生～古墳	溝・土坑	石器・サヌカイト片・弥生土器片・土師質土器片・土師器片・須恵器・鉄製品						
津森町高丸地区	集落跡	古墳～古代	溝・土坑	十師質土器片・須恵器片・木片						
綾歌町岡田西字新田地区	集落跡	古墳～中世	土坑	土師質土器片・須恵器片						
綾歌町栗原西字大妻田地区	集落跡	弥生～中世	溝・柱穴	弥生土器片・土師質土器片・須恵器片・柱根						
綾歌町栗原東字下河西地区		弥生～中世		土師質土器片・須恵器片						
飯山町東小川字前谷地区	古墳	古墳	溝・土坑	土師器片・須恵器片						
金倉町字道下地区	集落跡	弥生	溝・土坑	サヌカイト片・土師質土器片・土師器片・陶器片						
田村町字権の坪地区	集落跡	弥生～中世	溝・土坑	サヌカイト・弥生土器片・十師質土器片・土師器片・須恵器片・陶器片・磁器片						
飯野町東二字中代地区	集落跡	弥生～中世	溝・土坑	サヌカイト片・弥生土器片・土師質土器片・土師器片						
綾歌町呂原字城ノ内崩沢 【城ノ内崩跡】	集落跡	古代～中世	溝・上坑・旧河道	サヌカイト片・弥生土器片・黑色土器片・土師質土器片・土筋器片・須恵器片・瓦器片・陶器片・磁器片						
綾歌町富能字沖神沢 【行末西遺跡】	集落跡	縄文～中世	溝・土坑	石器・サヌカイト片・縄文土器片・弥生土器片・土師質土器片・土師器片・須恵器片・陶器片						
綾歌町富能字蘿ノ内地区 【城ノ内崩跡】	集落跡	弥生・古代～中世	溝・土坑・窓穴・柱頭・柱住柱	石器・弥生土器片・土師器片・須恵器片						
要約	本書は、千葉県が平成20年度に国庫補助事業により実施した丸亀市内遺跡発掘調査報告書である。 調査対象地は、民間・個人から「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会のあった地区及び丸亀市の実施する公共施設建設決定区域の内の13箇所である。これら13箇所は、いずれも周知の埋蔵文化財陪塚墓の開闢からは外れているが、周辺の比較的の近いところに周知の埋蔵文化財陪塚墓が所在していることから検討した結果、試掘調査を実施することとしたものである。									
	この内、『綾歌町富能字蘿ノ内地区』の2件及び『綾歌町富能字沖神沢地区』の2件は『城ノ内崩跡』として新たに周知の埋蔵文化財陪塚墓として登録されることとなった。『綾歌町富能字沖神沢地区』の遺跡は、『行末西遺跡』の範囲として追加登録されることとなった。									
その他の地区では、『祇園町東坂元字権の坪地区』、『田村町字高丸地区』、『綾歌町岡田西字新田地区』、『綾歌町栗原西字大妻田地区』、『飯山町東小川字前谷地区』、『金倉町字道下地区』、『田村町字権の坪地区』及び『飯野町東二字中代地区』では、遺構の検出及び遺物の出土が見られたが、後述の様な大きな特徴は見られなかった。										
また、『土器町西二丁目地区』では、土坑状の落ちは認められたものの、遺構であることの特定に至らなかった。『綾歌町栗原西字河西地区』では、遺物包含層は認められるものの、対象地が遺構の展開する微高地から下った谷地形部分に該当しており、区域内外には遺構の分布は無いことが確認された。										
今回の調査で見えた『城ノ内崩跡』及び『行末西遺跡』については、今後の保護措置が必要であることを事業者に伝達し、開発の際の対応に努めることとした。										
以上、今年度は当該事業により13箇所の試掘調査を行った。それぞれ、調査結果を香川県教育委員会に報告すると共に対象地の取り扱いを協議し、結果を踏まえて照会者に回答した。										

荆州市内道路交通事故报告书 第49

荆州市公安局交通警察支队监制

2011年3月1日

施集，性别：男，年龄：50岁，

为死者儿子，厂名：希望公司

电话：0377-44381111

时间：2011年3月1日